

箱根駅伝で 本校卒業生 横井裕仁くん 3年連続の快走

平成31年1月2日（水）

1月2日（水）第95回箱根駅伝に、本校卒業生、帝京大学4年 横井 裕仁（ひろひと）くんが3年連続で出場し、今年は往路4区を駆け抜けました。（区間3位の見事なタイム）

新春の箱根は、はなやかだ。しかし、監督は悩んだ。2年間6区を走った横井をどこで使うか。今年は出雲駅伝、全日本大学駅伝でともに大学最高順位の5位になっている。スタートダッシュの1区でいくか。勝負どころの4区でいくか。さあどうしたものか……。小田原城付近が後半の舞台となる4区がからむだけに、いつまでたってもなかなか結論が出ない。さながら戦国時代の北条氏のような。「うむ」監督は決断した。「下級生も育てている。層は厚い。エース区間は4区だ。よし、横井は4区でいこう！」

いよいよ午前8時に号砲が鳴る。1区で11位、2区で14位と出遅れた帝京大学。不安が頭をよぎる。しかし、3区を走る1年生の遠藤が14位から6位に順位を上げて平塚中継所に入りそうだ。それを聞いた横井は、早くも自分がまるでコースに出て走っているかのような上気した頬が、はっはと吐く白い息を透かして、その薔薇色を際立たせている。

トップの青山学院大学とは2分20秒の差。この平塚から国道1号線に戻ると大磯からは細かいアップダウンが続く。ペースがつかみにくいところだ。しかし自分は4年生。寮長として生活面でもチームを引っ張ってきた。自分は信頼されている。自分はその信頼に報いなければならない。

そうだ、裕仁、君は真の勇者だ。途中、苦しいこともあった。走れないこともあった。しかし、再び走れるようになったではないか。ああ、前を走る5位の選手までもう少しだ。もう少しだ、走れ、裕仁！

左に見える穏やかな相模湾には目もくれず、旧東海道の松並木も蹴散らし、裕仁は赤い風のように走った。沿道で手を振る人たちを仰天させ、小川を飛び越え、少しずつのぼっていく太陽の10倍も速く走った。一団の見物人とさっとすれちがった瞬間、ある会話を小耳にはさんだ。「5区ですっと待っている友がいるんだぞ」ああ、その友のために自分は今、こんなに走っているんだ。急げ、遅れてはいけない。自分にはその友にタスキを託すタスクがある。そしてついに5位へと順位を上げ、小田原中継所で2年生小野寺につないだ。タスキを渡すときも、受けるときと同様、笑顔で後輩を思いやる裕仁。湘南の空にのぼりきった太陽が勇者を優しく照らしていた。

彼の母親に写真の提供を依頼したところ、「目の前を走る我が子に声をかけることに精一杯で、写真は撮れませんでした」とのこと。当然だ。カメラの小さいのぞき窓で見るとはあまりにも大きな雄姿だったのだ。しかし、心のシャッターはきれていたに違いない。



《参考》第95回箱根駅伝 区間順位表(往路)【HPから引用】

4区(20.9km)			
順位	大学名	選手名(学年)	記録
1位	東洋大	相澤 晃(3)	1:00:54
2位	東海大	館澤 亨次(3)	1:02:37
3位	帝京大	横井裕仁(4)愛知 津島高	1:03:05
3位	早稲田大	清水 歎太(4)	1:03:05

